



紙つぶて

富士山頂は平地の約三分の二の気圧になります。それに加えて、低温、乾燥、強い日射と風にさらされます。このようなストレスを体を受けると、頭痛や吐き気、めまいなどの症状を起こします。軽い場合は慣れて回復しますが、重症になると命にかかわる場合があります。

ところで山頂でぐっすり眠れば急性高山病は治るでしょうか？ 実は、睡眠中の無呼吸・低呼吸で悪化してしまう場合もあることを、都立天塚病院の耳鼻咽喉科医長、井出里香医師は警告しています。彼女は山頂の研究者らの健康管理の責任者です。山頂に滞在する一般の研究者は訓練を受けた登山家ではなく、およそ三分の一の人に何らかの急性高山病の症状が出ます。その状態をプロの登山家である山頂班と

### 急性高山病

常時連絡を取りながら、井出さんが、時には徹夜で電話対応をして、すぐ下山させたり、酸素を吸わせる指示を出しています。私たちが山頂を管理してきたシーズンの夏の経験では、数例危険な場合がありますが、適切な処置で事なきを得ています。

本人も登山家で、休暇があれば世界の山に挑戦している井出さんは、富士山頂でも、立った状態での体の揺れを測定して「めまい」の研究をしています。その結果、下山中に滑落事故が多い原因が明らかになりました。富士山頂では、活性酸素によるストレスの研究、口の中に装置を入れて睡眠時無呼吸を防ぐ歯科学的

研究などもしています。



(土器屋 由紀子) 富士山測候所を活用する会理事